

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	東京医療保健大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	トウキョウイリョウホケンダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	医療保健学部医療情報学科
	担当教職員名・役職	教授 深澤弘美/教授 津村 宏
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	46
	受入企業等数	25
基本情報	受入企業等名	東京サラヤ(株)、サクラ精機(株)、サクラファインテックジャパン(株)、日本光電工業(株)、吉田製薬(株)、(株)ホギメディカル、(株)ランドコンピュータ、(株)ゼネット等。
	インターンシップの分類	8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ 11.その他
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	受入企業と本学で合意した内容のインターンシップ
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	大学の座学・演習等で学修した知識と技術が企業や病院の実社会での就業とどのように結びついているかを、企業における労働体験、学内における企業調査、企業担当者の講義等から学修する。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 4.当該インターンシップは、必修科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本科目においては、就職に対する意識を醸成し、職業適性や自身の将来設計について考える機会を与え、主体的な職業選択の意識を育成する。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学修において、授業の進め方のガイダンス、実習生としてのマナー講座、インターンシップ参加企業の開拓方法、企業研究並びに実習テーマについての事前学修、自己性格の分析(EQ検査とその解説)を行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実務学修において体験したこと、調査研究したことの発表会を実施し、学生間で講義することで知識の体験の共有化を図る。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	担当教員がインターンシップ先に赴き、学生の活動を確認・指導するとともに、企業の方と意見交換を適宜行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実務研修において体験したこと、調査研究したことの発表会を実施し、学生間で議論することで知識と体験の共有化を図る。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実習期間5日間以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実習期間5日間以上
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習期間5日間以上、40時間以上。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	・企業実習評価票による受入企業の担当者の評価も実施している。 ・実習後の発表会に企業担当者を招き、企業と協働してインターンシッププログラムを設計・検証し、ブラッシュアップしている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://www.thcu.ac.jp/faculty/healthcare/healthinfo/syllabus.html">http://www.thcu.ac.jp/faculty/healthcare/healthinfo/syllabus.html</a>
問い合わせ先	大学等名	東京医療保健大学
	担当部署名	教務部
	担当者役職名	教務部長
	担当者氏名	木之下 英二
	電話番号	03-5799-3711
	メールアドレス	kyoumu@thcu.ac.jp